

院生の未来に期待するもの

副学長・副研究科長 寺山 久美子

私は、毎年「新年のご挨拶を申し上げます」と題する年賀状を関係各位にお出ししてきましたが、2023年の年賀状では、次のような近況を兼ねたご報告をさせていただきました：

新年のご挨拶を申し上げます

「コロナの日々」が相変わらず続きますが、皆様にはお元気にお過ごしですか？

私の勤務する大阪河崎リハビリテーション大学は、昨年4月、大学院リハビリテーション研究科（修士課程）を開設しました。「高度リハビリテーション専門職育成にむけて大学院をつくりたい」という故河崎茂理事長の13年前の熱い思いが私が本学にお世話になる動機でした。

種々の事情で実現には長くかかってしまいましたが、社会人でもある1期院生は今熱心に勉学に取り組んでおります。地域リハビリテーションのリーダーとして活躍して欲しいと願っております。

令和5年1月吉日
寺山久美子

このように、万感の思いと期待をこめ、故河崎茂理事長を偲びつつ、第1期院生4名をお迎えしたわけです。この4名の院生は、全員理学療法士・言語聴覚士として臨床の場で活躍する社会人で、多忙な中、毎週水曜日を中心に開講される授業と臨床での研究疑問を研究テーマに論文作成作業に頑張っています。残念ながら1期生には作業療法士はおりませんでした。2期生以後の参加に期待しております。

ところで、本研究科では、以下の能力を備えたりハビリテーション専門職を養成することを目指した教育を実施しています。

1. リハビリテーション学分野における高度医療専門職業人として、リハビリテーションの発展に寄与することができる。
これは、本学で修得した研究能力を生かして、臨床・臨地の実践の場で「科学的根拠のある技術・知見を開発・工夫・提供」し、さらには学会等でその成果を発表し世に問うことを期待したいと考えております。
2. リハビリテーション学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場で指導的な役割を果たすことができる。
本大学院の教育研究の特徴として、1つ目は「認知機能を基本として運動機能、生活行為機能、コミュニケーション機能の教育研究を展開する」、また2つ目は「地域に根ざしたりハビリテーションを基盤とする」とし、これらの科目を必須科目としました。寺山も1期生に対し「地域リハビリテーションリーダー論」の初の講義を終了しましたが、院生の「地域共生社会に向けた地域支援」と地域におけるリーダーシップの活躍を大いに期待しています。
3. 地域リハビリテーションにおいて企画・提供・マネジメント等にも貢献することができる。
「地域リハビリテーションリーダー論」においても、「わがまち、地域のリハビリテーション」を調べ、新たな企画を提案する等の発表会を行いました。卒業後はさらにこれらをブラッシュアップし、地域展開へと実践して頂くことを期待しています。
4. 認知症を取り巻く予防も含めたりハビリテーションや支援を推進することができる。
「人生100年時代」、団塊の世代が80歳を超える2040年以後を展望し、認知症支援をしっかりできる人材を大いに期待しているところです。
5. 修得した専門知識を教育・研究・臨床に生かし、リハビリテーション学及び関連領域の発展に寄与することができる。
本学の卒業生の皆さんには特に、専門職のキャリアアップとして、生涯学修の場として本学大学院を大いに活用下さるよう期待します。大学院こそアクティブラーニングの場であり、共学の場です。